ここに注目

早稲田大学教授
川本　裕子

▶米金融改革法成立から2年（21日）

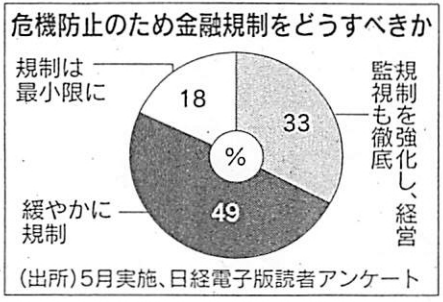
間断なき規制改善が重要

グローバル金融危機は今なお世界経済に影を落とす。これに対処し、金融の健全化を目指す米金融規制改革法が成立して2年を迎える。銀行をリスクの大きい取引から分離しようとする「ボルカー・ルール」の考え方にのっとり、大幅な規制強化が図られてきた。

金融システムに内在する巨大なリスクが社会に広く認識され、イノベーションを犠牲にしてでも安全に軸足を移す、規制強化の流れはある意味で当然であった。政府の支援を受けてようやく立ち直った金融界の報酬額は依然高く、責任のとり方も不十分だと米国内で不公平感が残る。

だが、どんなに規制を強化してもルールを迂回する行為は必ず生まれる。情報開示の劣る地域や分野へ資金が流れていくこともある。金融機能をモニターし、利益相反を避け、活力をそがないように間断なく規制を改善することは難しいが、これが大事だ。倫理基準の議論も必要だろう。

ロンドン銀行間取引金利（LIBOR）の不正操作問題でも市場関係者の「信用」に焦点が当たっている。金融ビジネスの基本が「信用」であることを徹底すべきだろう。

8年超コラムを担当し「先見」の大切さを学んだ。読者の皆様に感謝申し上げます。

（川本氏の「ここに注目」は今回で終わります）